

モーリシャス沖重油流出事故に対する声明

2020. 08. 21 (金)

Change Our Next Decade

Change Our Next Decade (以下、COND) は、2020年7月25日 (現地時間) にモーリシャス沖にて発生した日本の貨物船WAKASHIO号重油流出事故による環境汚染ならびに地元住民の生活への甚大な打撃について大きなショックと深い悲しみを受けています。

事故現場となったモーリシャス沿岸は2008年にラムサール湿地として登録され、魚800種、海洋哺乳類17種、カメ2種を含む1700種の生き物のすみかとなる生物多様性の豊かな海です。今回の事故により、モーリシャス政府は8月7日に異例の「環境非常事態宣言」を発令しました。珊瑚礁などの海の生き物が死滅、環境回復には数十年かかるとの見方もあり、CONDはこの衝撃的な非常事態に対して大きな懸念を抱いており、国際社会が連携し、世界の将来世代がモーリシャスの生物多様性の恵みを再び享受できることを強く求めています。

今回の重油流出事故は、環境汚染だけでなく、地元住民の生活にも大きな打撃を与えています。モーリシャスは国内総生産 (GDP) と雇用の19%を観光関連に依存しており、この事故によって観光資源の1つであるサンゴ礁が汚染されています。この事故はモーリシャスの経済にも甚大な影響を与える可能性があります。また、連日にわたる重油の回収作業は地元住民に大きな負担を強いる事態を引き起こしています。さらに、重油による空気汚染など地元住民の健康被害も憂慮すべき事態です。

CONDは、将来世代、そして国際社会の一員として、本件を無視することはできません。本声明によって、汚染された生態系の回復、流出した重油の回収作業に尽力するモーリシャスの方、地元住民が従来の生活へ復帰するための支援を表明します。

海洋汚染は、次第に範囲が広がり、隣国や諸外国の領域に対しても多大な影響を与える可能性があります。環境保全に関する船員研修の義務化や海洋保護区付近の航行の禁止等の取り決めの策定等の再発防止を国際的に取り組むことを求めます。また、船主である長鋪汽船の賠償について、油濁損害の内容に生態系に関する文言が認められなかったことに懸念を抱いています。生態系への影響に対するモニタリングは必要不可欠ですが、その調査費用の負担先が不透明となっています。よって、日本政府に対し、長期にわたる沿岸域調査プロジェクト及び研究者への支援を求めます。

CONDは、本件に関するメディア報道が少ないことに関しても懸念を抱いています。事故について正しく知り、意識を高め、行動を起こしていく必要があると考えます。SNSで本件について発信すること、身近な人と話すことだけでも、現状は少しずつ変えられると信じています。

最後に、CONDは、現在過酷な状況下にさらされながらも本件の対応にあたるモーリシャスの地元住民の方々、懸命な国際支援に従事されているの方々に対して、尊敬と感謝の意を示すとともに、連帯していくことを表明します。

出典：

●最新記事コラム一覧ニュース速報ランキングNewsweek 『モーリシャスが環境緊急事態宣言 日本船の燃料流出で生態系に懸念』 2020/08/10 11:00

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2020/08/post-94134.php>

●BBC NEWS JAPAN 『モーリシャス沖の貨物船の重油流出、なぜ深刻なのか』 2020/08/14

<https://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-53774997>

●NHK NEWS WEB 『モーリシャス沖の重油流出 現地で環境被害への懸念広がる』

2020/08/13

https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200813/k10012565651000.html?utm_int=detail_contents_news-related_002

●日経新聞電子版 『油流出、環境回復に数十年も モーリシャス』 2020/08/14 21:00

(2020/08/15 4:59更新)

<https://r.nikkei.com/article/DGXMZ062650430U0A810C2EA2000?s=4>

●JAPAN P&I CLUB 日本船主責任相互保険組合 『保険契約規程』

<https://www.piclub.or.jp/service/information#ocean>

以上

参考：Change Our Next Decade (COND) について

2019 年設立。生物多様性や環境の保全に関心がある「行動を起こしたい」ユース(高校生～若手社会人)が所属している。団体メンバーの総数は約 50 名程度(2020年8月21日現在)。

約 30 名の生物多様性ユースアンバサダーを中心に、北海道・関東・中部・近畿・中国・九州地域にて、自らの地域の特性を活かした活動をチームごとに実施している。その他、生物多様性や自然環境の保全に関するユースの意見表明・情報発信力を強化するため、生物多様性条約や次期生物多様性国家戦略への政策提言活動および自然環境に関する教育と普及を目的とした効果的なコミュニケーションに関わる活動にも注力し、SDGs の達成年となる 2030 年に向けた行動の基盤作りを進めている。Global Youth Biodiversity Network(GYBN)の日本支部であるGYBN-Japan加盟団体。

本声明文に関するお問い合わせ

secretariat.cond@gmail.com 代表 矢動丸琴子

